

白血病闘病 善意が後押し

白血病を患う愛知県一宮市のフィリピン人女性ターラ・エンリレさん(三巴)の骨髄移植を支援する活動を、本紙が八月二十日に報じた後、九月末までに六百三十万円の寄付が集まった。エンリレさんは「多くの人の思いやりの深さを感じ、感謝でいっぱい」と善意に笑顔を見せた。

報道後、一宮の女性へ630万円

エンリレさんは、三歳の一人娘を育てるシングルマザー。十一年前に来日後、名古屋市や岐阜県美濃加茂市で英会話講師をしてきたが、昨年一月に急性骨髄性白血病と診断された。

治療には骨髄移植が必要だが、父がイラン系米国人、母がフィリピン人のエンリレさんは、免疫組織の型が希少で、適合しなければ移植を受けられない。移植の費用は最低で五百万円。適合者探しが難航すれば、さらに数倍の費用がかさむ。

こうした事情に、エンリレさんが通う一宮キリスト教会の知人が七月に「ターラさんを支援する会」を設立、寄付を募ってきた。報道の後、励ましの手紙や電話が相次ぎ、寄付の申し出

米に適合者か「できることやる」

は合計三百六十件。報道前の寄付額と合わせると八百九十万円に上った。

海外の骨髄バンクに照会したところ、米国で適合者の可能性のある人が一人見つかった。検査して移植が可能か見極めるという。

現在、一時帰宅しているエンリレさんは体力が衰えているが、次の入院まで娘との時間を大切に過ごしている。「みんなの支援のおかげ。私は諦めないし、できることは全部やる」と決意している。支援する会は移植が成功するまで寄付を募り、余った場合は同様な立場にある白血病患者に寄贈する。問い合わせは一宮キリスト教会＝電話0586(73)1444へ。



白血病を患い闘病を続けるターラ・エンリレさん＝9日、愛知県一宮市の一宮キリスト教会で